

米国出張報告

日時：平成18年2月15日（水）

場所：国立情報学研究所

広島大学図書館 首東 誠

shutom@hiroshima-u.ac.jp

広島大学 米国出張

平成18年1月29日(日)～平成18年2月5日(日)

<米国西海岸(2名)>

- カリフォルニア大学バークレー校
- スタンフォード大学
- カリフォルニア工科大学

<米国東海岸(2名)>

- オハイオ州立大学
- コーネル大学
- コロンビア大学

カリフォルニア大学バークレー校

- 電子化には分野によって温度差がある
積極的← →消極的
自然科学系 社会科学系 人文科学系
- コンテンツ数を問題にしていない
利用者が何を求めているかによって、各分野で
評価が変わってくる。
- 分野によっては、特定の学会と連携したり、業者が介在したりするケースもある

＜東アジア言語文化学部長によると＞

- 当該学部では機関リポジトリ(IR)を教員評価資料としない旨の発言があった

スタンフォード大学

- 物理学や医学分野の研究者は熱心であるが、人文社会科学系では殆ど関心がない
- 各研究者は1年に1回その年の業績を大学当局に提出する
- Googleと提携を結び、今後著作権に関わらない本から順次電子化を推し進めていく予定

<アジア言語学部長によると>

- 文系と理系を一律に評価できないのでは...
- 時間のかけ方が違うのだし、そういった点をこそ、学部長は外部へ説明する責任がある

カリフォルニア工科大学

- 大学として構築を始める前から、工学分野では実験的運用が行われていた
電子化を志向していた分野を中心に自発的に行われた
- 学位論文はデジタル化したものを提出する
大学当局から研究者(学生)への要求ではあるが決して義務ではなく、論文執筆者からいつから公開してもいいという承諾を同時に取り付ける必要がある
- 現在のコンテンツは学位論文が中心
- 工学分野は非常に熱心だが、他は積極的とはいえない
コンテンツを送らない研究者は、忙しさを理由にしている

カリフォルニア工科大学

- ライブラリアンの積極的な関与
IRの目的、コンテンツの種類・水準を決める
- 国際会議などの記録を残し広く公開する媒体として有効かつ必要

※3大学の関係者に共通の認識として強調されたのは、IRの構築と公開は、大学の(社会)への「説明責任」の重要な方法であるという点と、登録することは義務ではなく任意であるという点

オハイオ州立大学

<Knowledge Bank>

- DSpaceの当初からのメンバー
- コミュニティーはオハイオ州立大学(OSU)関係者であれば個人からOK
- 各コミュニティでパーソナライズができる
- 担当者5人のうち、1人は著作権担当
- Creative Commonsにも対応
- 図書館員は、メタデータの入力に関与

オハイオ州立大学

- 教員は協力的
e-mail等による問い合わせなどフィードバックがあり、利点に気付いている
- OSUの全ての成果物が、一つの場所でしっかりと保存されオープンアクセスなのは、提供者・利用者双方にとって利益が大きい
2005年1月のアクセス数・・・9, 266hits
2006年1月1－15日のアクセス数・・・46, 866hits
→英国578、日本273、サウジアラビア10 etc.

オハイオ州立大学

＜歴史学科の准教授によると＞

- 紀要も価値あり
- 日本語onlyでもOK
- どんな資料でも必要とする人はいる
- 地方誌や国際会議のレポート等、入手しにくいものは貴重
- 来日しなくても、多くの情報を得ることのできる環境を期待

コーネル大学

<techreports>

コンピュータサイエンス(CS)分野のIRで10年前から開始

<OAR>

予算の問題とFedoraはuser friendlyでないことから、
DSpaceを採用

<arXiv>

物理学分野で有名なプレプリントサーバー

※arXivから本学関係者のデータを取り込むことについての
許諾をもらう

→著作権者の許可を得て本学リポジトリに登録予定

コーネル大学

- 登録数

arXiv 過去3～4年は50件/日 合計350,000件

OAR 合計2,500件(3年間)

techreports 30件/年 合計2,000件

→CS分野の研究者のほとんどがarXivへ登録
全てのデータがarXivに登録されている

- ダウンロード数

arXiv 20,000回/日

OAR 2,600回/日

techreports 860回/日

コーネル大学

- 博士論文の登録は任意
- 著作権担当者が2名
専門家とQuick Reference担当
- 特定の分野の方が成功
まずは1～2の学部を攻めると効果が上がる
- コーネルとパーデュー大学はIRに対するポリシーを持つ
教授会で登録を推奨している

<人文社会系から>

IRに登録すると出版できなくなるという意見

コーネル大学

<Internet-First University Press (IFUP)>

- 発行者、利用者双方にとって有益
紙媒体より出版コスト、部数、採算の面で効率的
個人用のプリントアウトは無料
1年分のデータを1枚のCD-ROM(2ドル)で提供
- 学位論文
UMIは義務、IFUPはオプション
- 統計が取れる
利用の多いものについては紙媒体で出版することもある

コーネル大学

<Project Euclid>

- SPARC/JAPANと連携
日本の数学雑誌を電子化
- 大学図書館が出版社を目指す
独立した雑誌、学会誌の電子化
- システムのDpubSを2006年夏にオープンソースにする予定
proceeding、monographも扱える様になる

※日本の大学図書館との協力に関心がある模様

コロンビア大学

<CIAO (Columbia International Affairs Online)>

- EPIC(図書館・出版局・コンピュータセンター)の運営
図書館のイニシアチブで、1998年にメロン財団の資金
(3年での自立が条件)を得て開始
- Working Paper、出版物(雑誌・本・本の章)
当初は全米、現在は世界中から資料を収集
年2回の会議で顔を繋ぎ、その後e-mail等で依頼
→初めはこちらから、今ではあちらから
- 年会費
諸経費20万ドルに対して、収入は30万ドル
10万ドルは新しいプロジェクトのために貯蓄

コロンビア大学

- 年2回の会議で、グループ会議を開きデザインやサーチエンジンetc.について意見交換をしている

＜CIAOの責任者（発案者）によると＞

- 上手くいった理由は、International Affairは狭い分野で電子資料がなく、大きい出版社が手を出していなかったから
- 2005年まで図書館とコンピュータセンターが一緒だったことも大きい
- 2～3年で疑問が生じるかも
始めたころはGoogleもなかったが今では...

コロンビア大学

- Digital Library Publishingに力を入れてきた
貴重書、特殊コレクションの電子化
オンライン展覧会
1924年以前(著作権切れ)の一般書の電子化
- IRへの取り組みは始まったばかり
コンテンツの組織化がなされていない
図書館の人手・資金不足
→維持・継続の保証が困難だった

コロンビア大学

<DIGITALCOMMONS@COLUMBIA>

1997年以前 1, 000論文

1997年以降 4, 000論文

全て博士論文

- 著作権を気にしないでよい

ProQuest(UMI)にて既に処理済み

※学内およびProQuest Digital Dissertationsの契約者は
フリーだが、その他の利用者には制限あり

※2～3年はDIGITALCOMMONSを利用予定

※3大学を訪問してみて、著作権を担当する職員が必要、
学位論文や紀要にも十分な価値がある、ターゲットを
絞ったコンテンツ収集が効果的との印象を受けた

広島大学学術情報リポジトリ - 現在の進捗状況と今後の予定 -

- コンテンツ収集中
約800件(2月14日現在)
- サーバー設置済み
カスタマイズ中
- 3月よりメタデータ入力開始予定
- 4月より公開予定

ご清聴ありがとうございました